

令和4年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立河内中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分ご理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和4年4月19日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	112人	社会	112人	数学	112人
	理科	112人	英語	112人		

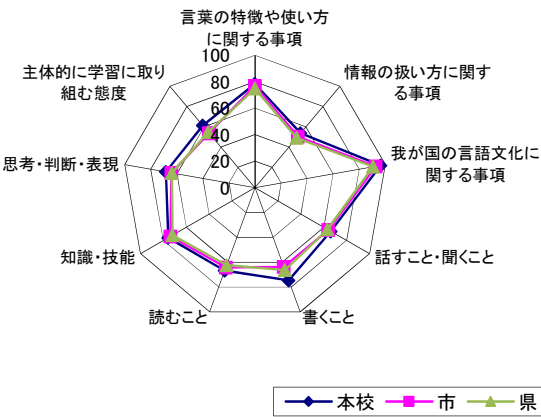
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立河内中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	78.4	76.9	74.9
	情報の扱い方にに関する事項	53.6	50.3	49.2
	我が国の言語文化に関する事項	96.4	92.6	90.7
	話すこと・聞くこと	66.1	64.2	63.4
	書くこと	74.6	63.7	66.4
	読むこと	66.7	64.2	62.5
観点	知識・技能	75.7	73.7	71.9
	思考・判断・表現	68.4	64.1	63.8
	主体的に学習に取り組む態度	61.4	53.8	54.8



★指導の工夫と改善

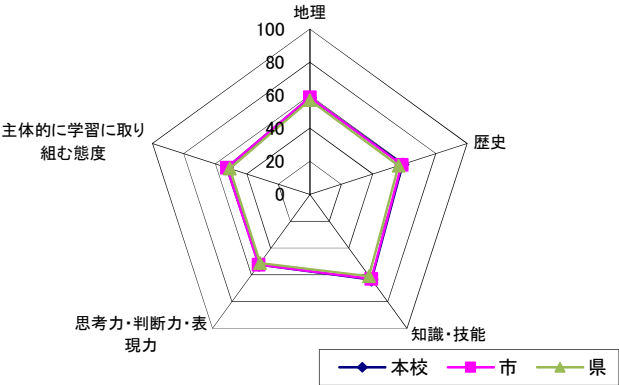
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○漢字の読み書きにおいては、特に「書き」の分野では県平均を大きく上回る結果となった。「半径」を書く問いでは、県平均を14.2ポイント上回っている。単元に「他教科で習う漢字」「形の似た漢字」があり、その単元の成果が大きく出たものと思われる。 ●課題として、文節の関係・故事成語の分野で県平均を下回る結果となった。	・「文節の関係」や「単語の分別」など、2学年でも「助詞」や「用言の活用」等、品詞に関する単元で改めて復習する機会を設けたい。また、漢字の定着をより図るために、定期的に小学校～1学年時に学んだ漢字の復習に力を入れていきたい。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、2問ともやや平均を上回る結果となった。 ○資料に当てはまる語句を文章から探し、完成させる問題において、6割近い生徒が正答している。現在、画像等の視覚的資料が多くなる中、読み取る力が培われていると考えられる。 ●県平均を上回っているものの、2問とも半数近くの生徒が誤答している。	・情報の扱い方・読み取る力は、情報社会と言われる昨今において重要な力となっている。今後、説明的文章を取り扱う際には、用いられている資料に目を向け、効果や目的などを考える時間を設けるなど、工夫をしていきたい。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○現代仮名遣いに直す問題では、96.4%が正答しており、古典分野の基礎の定着が図られていると考えられる。	・2学年では、「平家物語」など内容が難しくなってくる。社会科の歴史分野との結びつきを大切に、より身近に感じられるよう、映像資料等を用いた工夫をしていきたい。また、高校進学後にむけて、苦手意識をもたないように指導していきたい。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○多人数の話し合いを、要点をまとめて適切に聞き取り、メモを取る力は育まれていると考えられる。また、話し合いを円滑に進めるために必要な言葉を補う力も培われており、県の平均を2.9ポイント上回る結果となった。 ●聞き取ったことなどに関して、自分の言葉で補う記述式の問いでは、正答率43.8%、話の構成を考える問いでは、正答率44.6%といずれも県平均を上回っているものの、記述力には課題を残す結果となった。	・現在コロナ禍であり、グループディスカッションなどがあまりできない状況が続いている。その中で、聞き取り、話す力を培うために、指名での発表や聞き取りテストの実施などで補っていききたい。また、「書くこと」でも後述するが、思考を言語化し記述する力を養う活動を多く取り入れていきたい。
書くこと	平均正答率は、市の平均を10.9ポイント上回る結果となった。 ○文章を書くことに抵抗感をおぼえる生徒も多い中、あきらめずに書こうとしている生徒が多くみられた。また、「自分の考えを明確に書く」という観点では、県平均を10.7ポイント上回っており、思考を言語化する力が定着してきていると考えられる。 ●読み取ったことと自分の思考を関連付けて記述する項目が他の観点に比べて数値が落ち込んでいる。	・作文は、苦手意識をもっている生徒も多く、抵抗感を少しでも取り払えるように、授業内でも活動を多く取り入れている。「情報の扱い方にに関する事項」とも関連させながら、資料を読み取ったり、聞いたことに関連させたりすることにも、これから触れる機会を多く設けていきたい。
読むこと	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○「登場人物の心情理解」など、文学的文章に関する問題の正答率が高い。 ●「情報の扱い方にに関する事項」と同様、資料の読み取りに関する問題の正答率が、やや落ち込んでいる。	・説明的文章等での資料の読み取りに関する活動を積極的に取り入れる。

宇都宮市立河内中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	58.5	58.7	57.0
	歴史	59.0	58.3	56.4
観点	知識・技能	63.6	63.1	61.0
	思考力・判断力・表現力	52.4	52.5	51.1
	主体的に学習に取り組む態度	52.6	52.6	50.8



★指導の工夫と改善

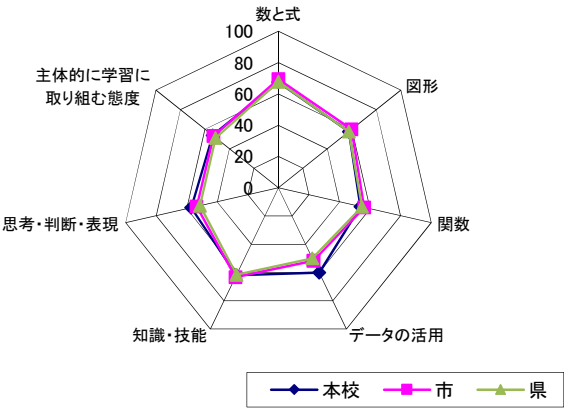
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	平均正答率は、市の平均とほぼ同じである。 ○世界の姿の問題では、世界のさまざまな国の国旗の特色に関する問題で、本校の正答率が48.2%で、市のそれよりも2.7ポイント上回っていた。 また、世界各地の人々の生活と環境の問題では、乾燥した地域に住む人々の暮らしについて、複数の資料をもとに考察する問いで、本校の正答率が75%であり、市のそれよりも3.2ポイント上回っていた。本校でも基本的な知識や学習内容の基礎はよく定着していると考えられる。 ●観点別に見た時、思考力・判断力・表現力の本校平均正答率は市のそれとほぼ同じであるが、南アメリカ州の開発と環境保全についての記述問題など、正答率が低いものもあった。	・今後も基礎・基本の定着に努め、しっかりと正しく解答を書ける力を身に付け、誤答が減るように指導していきたい。 ・单元ごとのまとめ学習などをとおして、思考力・判断力・表現力の育成につながるように指導を工夫したい。
歴史	本校の正答率は、市の平均よりも0.7ポイント上回っている。 ○中世の日本に関する問題では、勘合貿易の内容の理解について、本校の正答率が市のそれよりも13ポイントも上回っている。 ●古代からの問題で、墾田永年私財法の制定による社会の変化についての問題で、本校の正答率は53.6%と、市のそれよりも6.4ポイント低かった。	・概ね知識・技能の観点に当たる基礎問題は、本校の正答率の方が市平均正答率より0.5ポイント高く、今後も継続的な復習に取り組ませるなどして、更なる向上に努めたい。 ・思考力・判断力・表現力の観点に当たる活用問題の本校の正答率が、市平均正答率よりもわずかに低かった。普段の授業でも、さまざまな歴史資料を活用して読み取らせたり、自分の言葉で表現させたりするなどして、思考力・判断力・表現力の育成を目指していきたい。

宇都宮市立河内中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	67.5	69.3	67.7
	図形	57.5	59.8	57.7
	関数	53.7	56.2	54.7
	データの活用	60.0	51.6	49.9
観点	知識・技能	61.9	63.2	61.5
	思考・判断・表現	57.1	53.5	51.4
	主体的に学習に取り組む態度	53.6	53.0	51.2



★指導の工夫と改善

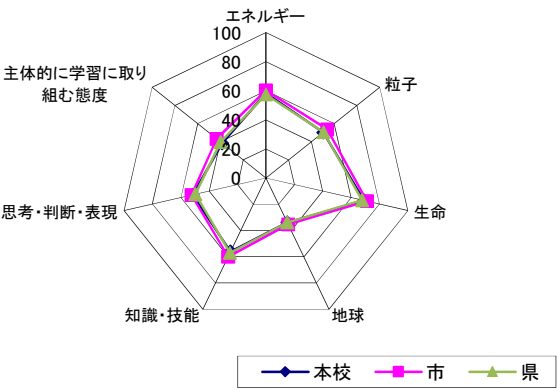
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「四則計算の結果の特徴を捉える」の問題では、宇都宮市の平均正答率より7.3ポイント高い。 ●「素因数分解ができる」では、市の平均正答率より10.6ポイント、「1次式の減法ができる」では10.7ポイント低い。	・基本的な計算問題の正答率は高く、定着しているようである。しかし、割合を文字式で表すことや数学的に説明するような問題では正答率が下がる傾向がある。特に数の集合に対して、苦手意識をもっている生徒が多い。 ・今後は、ドリル学習で計算力の強化を行いつつ、数の集合と四則計算の可能性について、説明をととして言語活動の向上につなげていきたい。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「底面積が等しい円錐と円柱の体積の関係を理解している」の問題では、市の平均正答率より2.2ポイント高い。 ●「線対称について理解している」では、市の平均正答率より6.6ポイント低く、「回転移動を用いて説明する」では5.1ポイント、「対称移動における対称の軸について理解している」では3.6ポイント低い。	・図形の性質や辺の位置関係などにおいては、まだ理解が不十分である。図形に対して苦手意識をもっている生徒が多い。 ・今後は、生徒の理解度に応じた学習プリントの作成や活用、自己の理解度に応じたプリントを選択できる能力、生徒が分かったと実感できる授業展開の工夫などを心掛けていきたい。
関数	平均正答率は、市の平均より低い。 ○「関数の正しい関係を示したグラフを選ぶことができる」の問題では、市の平均正答率より6.3ポイント高い。 ●「比例の関係での値の変化について理解している」では、市の平均正答率より13.1ポイント、「比例の式から、比例のグラフをかくことができる」では5.8ポイント低い。	・関数は4つの領域の中で最も苦手意識をもつ傾向が強い。「関数とは何か」、「比例と反比例の違い」、「グラフを読み取る力・グラフを利用して考える力」など、関数は今まで学んだ知識を様々な場面において活用する能力が必要である。 ・今後は、比例・反比例のx、yの変化をタブレットを活用することで視覚的に情報を捉えることができるようにする。生徒同士で学び合うことをとおして苦手意識の克服につなげていきたい。
データの活用	平均正答率は、市の平均より高い。 ○「度数分布表から相対度数を求める方法を理解している」の問題では、市の平均正答率より17.7ポイント、「度数折れ線から読み取った傾向をもとに説明することができる」では12.7ポイント高い。 ●「階級の度数について理解している」では0.6ポイント低い。	・基本的な計算問題の正答率は高く、定着しているようである。データに対して意欲的に活動する生徒が多い。 ・今後は、教科書の問題だけでなく、生活の中の事柄を相対度数や累積度数、最頻値などを使いながら考え、覚えるだけの授業ではなく活用する授業を試みていきたい。

宇都宮市立河内中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	58.4	60.3	57.4
	粒子	50.4	53.8	50.7
	生命	69.2	71.2	67.8
	地球	33.8	35.3	33.8
観点	知識・技能	56.0	59.9	57.0
	思考・判断・表現	51.6	52.4	49.7
	主体的に学習に取り組む態度	38.4	43.3	39.8



★指導の工夫と改善

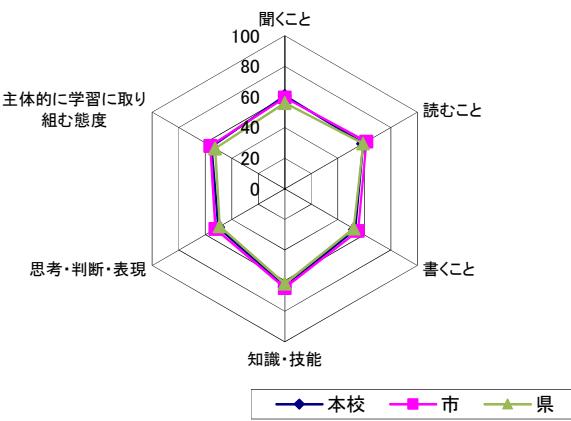
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○2つの角の図から、どちらが大きいかを判断する問題の平均正答率が県、市の数値と比較して10ポイント前後上回っている。観察したものについて、いろいろと気づく力がある。 ●県、市の平均正答率を下回っているものが多い。特に「力の性質」では、力の矢印を書いたり、力の大きさとかばねののびとの関係を表のデータを元に書きたりする問題で、10ポイント前後下回っている。また、光や音の現象が、どのような仕組みで起こっているかということが既習内容と結びついていない。	・物理分野は、概念が難しくイメージしにくいので、身近な現象が学習とつながっていることを実験や観察・映像の視聴などをとおして知らせていきたい。 ・まずは、知識をしっかりと定着させていき、その上で単なる暗記ではなくいろいろな情報や知識を結びつけていき、それらを使って考えを深めていく授業を展開していきたい。
粒子	○飽和水溶液が一晩で結晶になった理由を問う問題の平均正答率が、県、市、いずれの数値と比較しても平均正答率を5ポイント以上上回っていた。 ●県、市の平均正答率をほとんど下回っており、その多くは5ポイント以上の差がある。物質を判別する方法に関する問題やグラフから状況を分析する問題が特に差が大きい。水とエタノールの加熱時間による温度変化を表したグラフを比較して、2つの物質の混合物を加熱したときの変化を予想する問題では、市の平均を10.3ポイント下回っている。学習した知識を応用して考える力がついていない。	・まずは、知識をしっかりと定着させることが大切である。その上で、それを一問一答式の知識としてではなく、ネットワークでつながった知識にしていく授業を展開していきたい。 ・実験・観察をただ漠然と行うのではなく、実験・観察の結果に対し、「なぜ?」「どうして?」と追究し考えさせる授業を展開し、そのことが起こる必然性に目を向けさせていきたい。 ・グラフについては、書くのも読み取ることも苦手なようなので、グラフの読み書きを視野に入れた授業を展開していきたい。
生命	○県の数値と比較すると、平均正答率を5ポイント以上上回っている問題が4割ある。動物を生活する場所で分類する問題では、70.5%と県だけでなく市も5ポイント以上上回っている。 ●市の数値と比較すると、平均正答率を下回っている問題が5割ある。特に、植物の分類の基準について記述する問題や軟体動物の仲間にはどんな生物がいるのかをふまえた問題については、それぞれ42.9%、24.7%と市の平均を10ポイント以上下回っている。どういう特徴によって生物が分類されているかやそのグループにはどんな生物がいるのかということが、知識と十分に結びついていない。	・生物は身近にいて、見たり触れたりすることができるので、そういう機会を増やしていきたい。そして、様々な体験や観察をとおして、実感をもとに授業を展開していきたい。 ・学習する知識を身の回りの生物と結びつけながら定着できるように取り組んでいきたい。 ・定着した知識を元に、身の回りの生物について、いろいろと考えさせていく授業を展開していきたい。 ・身の回りの生物について、「なぜだろう」という気持ちを大切に、自分で調べるきっかけを与えたり、探究する方法を身につけさせたりする授業を展開していく。
地球	○この分野は、状況調査実施の比較的近い時期に学習をしているため、他の分野に比べ、平均正答率が県、市、いずれの数値とも上回っている問題が多かった。特に、地震のゆれを伝えるP波とS波の速さに関する問題の正答率は5ポイント以上上回っている。 ●堆積物の粒の大きさの変化から堆積当時の状況の変化を推察する問題の正答率は22.3%と市、県の正答率を10ポイント以上下回っている。また、「初期微動継続時間は震源からの距離に比例する」という知識を使って考える問題でも、正答率が51.8%と5ポイント以上下回っている。学習した知識が十分に活用できていない。	・地学分野は、他の分野に比べると体験や観察などが十分にできないことが多い。また、突発的なできごとについての学習もあり、資料の収集が難しいという面もある。そのため、できごとが起こったときにどんなデータをどのように集めるかなどを考えておき、様々な資料を計画的に収集することが必要である。そのようにして収集した資料を効果的に使用した授業、モデルによる再現実験や実物の観察の授業を行い、学習内容を身近に感じたり、実感とともに理解したり考えたりできるようにしていきたい。 ・2つの事象が「比例する」ということを使って、実際のできごとを類推していくことを念頭に置いた授業を展開していきたい。

宇都宮市立河内中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	60.8	59.6	56.1
	読むこと	59.1	61.6	59.1
	書くこと	53.0	55.2	51.9
観点	知識・技能	64.0	64.7	61.9
	思考・判断・表現	50.2	52.4	49.1
	主体的に学習に取り組む態度	55.3	56.1	52.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○すべての問題で県正答率と同等かそれ以上であった。特に、「内容理解」や「さまざまな英文の聞き取り」においては、それぞれ県の正答率より5ポイント以上上回っているものが多かった。 ●「絵を適切に表している英文を聞き取ることができる(状況)」の問題では、正答率が低く、ひとつひとつの英文の内容とそれに合った適切な絵についての理解度が低かった。	・小学校から英語を聞いていることもあり、英文の聞き取りは校内のリスニングテストでも平均点が高い。今後は、問題だけでなく、授業での教師や友人、ALTの発言などの日常会話に近い内容でも英文を聞き取れるようにしていきたい。
読むこと	○県平均正答率と同じであった。特に、「さまざまな英文の読み取り」や「長文の読み取り」に関しては、ほとんどの回答が県正答率と同程度であった。 ●「語形・語法の知識・理解」や「語彙の知識・理解」では正答率が低く、県正答率に達していない回答が多くあった。 ●「読み取り」の中でも、対話の流れやチラシの概要を理解して解く問題では正答率が県正答率を下回っているものが多かった。	・基本的な語形・語法・語彙の理解が十分でないことが分かった。コミュニケーション活動だけでなく、基本的な文法事項の確認やそれにおける問題演習などをとおして、定着を図りたい。 ・対話の流れや文章全体の概要を理解して解く問題の正答率が低かったため、教科書本文を用いてリテリングを行い、本文の読み取りや全体の概要を理解できるようにしていきたい。
書くこと	○「3文以上の英作文」では約75%の生徒が回答し、まとまりのある内容での自己紹介文を書いていた。 ●「情報に基づいて書く英作文」ではすべての問題において県正答率を下回った。 ●他の分類に比べ、無回答が多く、特に「場面に応じて書く英作文」における「相手を誘う」問題については4割が無回答であった。	・情報を与えられたり、場面に応じて書く英作文での正答率が低かったため、自分のことを自由に書くだけでなく、正しい表現を用いて与えられた情報や場面にあった英文を書けるように指導していきたい。 ・さまざまな英作文に取り組めるようにしていきたい。情報をもとに書いたり、まとまりのある英作文を書いたりするようにしたい。その際、生徒が取り組みやすいテーマや書きたいと思う内容を設定することで生徒の学習意欲を高められるため、テーマをよく考えて設定したい。

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家の人がほめてもらいたいことをほめてくれる」と肯定的に回答している生徒が83.1%と8割を超え、市・県を4～6ポイント上回っている。「自分は家族の大切な一員だと思う」という回答も9割を超えている。「毎日、朝食を食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「早寝、早起きを心がけている」についての肯定的回答も、それぞれ95.5%、83.9%、71.4%と市・県を上回っている。

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「自然や宇宙など、科学の内容を扱っているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ」や「理科の授業で学習したことをふだんの生活の中で活用できないか考えている」に対する肯定的回答がそれぞれ63.4%、51.8%で市・県を下回っている。	理科・科学が普段の生活に密接に関係していることを伝えていく。	・科学ニュースなどを紹介していく。 ・科学が身近なものであることが分かる授業の工夫。 ・体験をとおして学ぶ授業の工夫。